

夢と希望に燃える北高生 ~2017・平成29年も北高は頑張ります!~

12月22日~1月5日の冬季休業、北高生は強化練習会や課外講習など、春に向けて力を蓄える活動にじっくり取り組みました。部活動では2年生が主体となり部をまとめ、課題の克服等を目標に活動

しました。課外講習では入試直前の3年生はもちろん、1、2年生も教科の発展部分にも挑戦する等、北高生は冬も活

年始のアンサンブルコンテスト県大会に向けて練習する吹奏楽部クラリネットパート



さわやかな朝の挨拶で新年が始まりました



発に活動し、希望を持って新年を迎えました。1月6日から始まった校門での挨拶運動は、寒さの中にも明るい声があふれる2017(平成29)年を期待させました。新年もどうぞよろしくお願いたします。



女子バレーボール部は県外から3校を迎え、本校を会場に合同強化合宿を行いました

1、3学年 進路講演会開催

1月10日、1学年は「高校生の進路選択と一歩先を考えることの大切さ」と題し、(株)キャリアプランニング代表取締役の桑名暢さんから講演をいただきました。「話を聞く力が大切」、「向き不向きは相手が決めること。自分がやりたいこと、好きなことを



「何がやりたいか、自分と話す桑名さん

やる姿勢が大事」等、高校1年では考えてもみなかった興味深い視点が紹介され、これからの生活を新たに捉えるヒントをいただきました。生徒からは「良い事、できた理由を考えることでポジティブな行動が始まる」、「できないことを考えるのではなく、できることを探してモチベーションを上げたい」、「周りが悪いと決めつけるような大人にはなりたくない」、「人間の生活を知ることによって自分の将来がイメージできる」等、未来を積極的に捉える感想が多く寄せられました。

また、3学年では同日、NPO法人POSSE事務局の川久保亮弘さんによる講演「ブラック企業・ブラックバイトの実態と対処術」を開催しました。バイトであっても学生であることを尊重した勤務形態の重要性等を学びました。

また、2年生(希望者)は1月15日に仙台市内で「チャレンジセンター」を受験。実際の問題を試し、来年に向けて本番さながらの模試を受験しました。

センター試験会場では、応援に訪れた担任の先生から激励を受けました



また、2年生(希望者)は1月15日に仙台市内で「チャレンジセンター」を受験。実際の問題を試し、来年に向けて本番さながらの模試を受験しました。

また、2年生(希望者)は1月15日に仙台市内で「チャレンジセンター」を受験。実際の問題を試し、来年に向けて本番さながらの模試を受験しました。

大学入試センター試験に挑む

1月14、15日行われたセンター試験。北高生は尚綱学院大と仙台大会場に分かれ受験しました。今までの授業で培った力を発揮すべく、精一杯挑みました。3年生はセンター試験後、私大入試が始まり、受験本番を迎えます。



3学年保健指導「セクシャル・ライツって何?」

12月20日、「セクシャル・ライツ」(性的人権)について、加藤尚子養護教諭を講師に学習しました。幸せな社会生活、家庭生活を送るためには「平等で尊重し合う男女のあり方」を知ることが大切です。高校生として今後の人生ときちんと向き合う時間となりました。世の中には、自分の感情をうまく表せずに束縛に向かってしまう事件が報道されることがあります。セクハラやDVのない社会の実現のために、「相手の気持ちを考え、自らをコントロールする力」を身につけ、豊かな人間関係について考える機会が今後も大切です。生徒から「互いを理解し尊敬する関係が大切だと思う」、「周囲に合わせるのではなく、自分の考えをしっかりと伝えることが必要」、「仲が良くとも価値観が同じ人はいないことをしっかりと理解する」、「どんな場でも男女が対等であることを意識する」、「男女に関係なく、他人を尊重する気持ちが大切」等の感想が寄せられました。



多くの人に支えられて

冬になり、校門付近の凍結防止のために融雪剤を撒いたり、校庭の枯草を片付ける等、校舎内外に目を向け、生徒の安全な学校生活のために奔走している2人の庁務を紹介します。「施設設備の不具合は何でも言って欲しい。生徒が頑張る姿が毎日の励みです」(奥田賢治技師・写真右)。「生徒の皆さんがゴミ分別をしっかりとやってくれる。北高生は人を思いやる優しさがあるのが嬉しいです」(佐藤富士男業務補助員・写真左)。

このような職員や地域の皆様等、多くの方々に支えられて充実した学校生活があることを生徒は学んでいます。



「何もないところから始めたことが自信になった」 (株)佐々直 常務取締役 **佐々木悠輔**さん (19回生・平成12年卒) 地元名取で親しまれている笹かま製造販売会社「佐々直」。本校同窓生でもある佐々木さんは、昨年、本校生徒50人がボランティア参加した「3・11なとり関上追悼イベント」を主催する「なとり復興プロジェクト」実行委員長でもあります。震災で関上の工場すべてを流失した後の工場再稼働、地域イベント立ち上げの経緯、後輩へのメッセージ等についてインタビューしました。



●北高卒業後、知らない土地での経験が刺激に

高校卒業後、神奈川県のある大学へ進学、その後福岡県へ就職しました。大学では祭りの立ち上げを通じて地域の方との繋がりを体験し、福岡でも地域の中での企業のあり方を学びました。知らない町での経験は、地元を考える大きな刺激になり、27歳の時に関上に戻りました。

●早く関上に戻りたい気持ちと防災の大切さ

震災後「どうしよう」という気持ちはありましたが、地元の企業としてできるだけ早く以前通りに再開し、社員の生活を守ることも企業の使命と考えました。工場も早く関上に戻りたいですが、災害に耐えられる町づくり、命を守る環境整備も大切で、戻るまでにはまだ時間はかかりそうです。

●何もないところから始めたことが自信に

今まで当たり前だったことが当たり前でなくなる経験を通して、いろいろな仕組みの理由がひとつずつ分って行きました。何もないところから始めたことで失敗は多々ありましたが、自信が着きました。人との付き合いもフラットな状況になり、全員で創り上げる共創という考え方を学びました。

●「無理やりでも何かしないと」と思って始めたイベント

震災の状況下、みんな下を向いていました。朝市の理事長を中心に、関上で毎年行われていた花火と灯籠流しをやるということになり、震災の年の夏に行いました。その時に、僅かですが絵灯籠も制作し飾りました。その後、工事等の影響で関上で灯籠流しができなくなり、陸地で飾れる絵灯籠を3・11に飾り付けし慰霊をしようと考えました。全国各地か

ら絵が集まり、毎年3・11には関上に約5000基の絵灯籠を飾り付けて来ました。

●イベントの目的は地元の若者に伝えること

ボランティアは全国から集まり、たいへん嬉しく思いました。しかし、悲劇を風化させず、命が犠牲になるようなことは二度とあってはならないことを、地元の高校生など若者に伝えることこそが使命だと思っています。どの地域の祭りも、元は飢饉や災害からの立ち直りが起源で、このイベントにも多くの若者が参加し、将来、地域が笑顔になれるようなイベントになってゆくことを望んでいます。

●高校で何かに打ち込んだことが基礎になる

高校、大学でのラグビー部の厳しい練習が今の基礎を作ったと思っています。若い頃は「あっちのほうがいいかも」と目移りすることもありますが、打ち込んだ経験こそが社会人に最も大切な「素直さ」を育むのだと思います。「疑問に思うことがあるからやらない」のではなく、「まずはやってみる」ことで、それが自信となり、自分の成長につながります。

●仕事の喜びはみんなと一緒に分かち合うこと

笹かまばこを通し、お客様の喜ぶ笑顔を見るため各部署と連携し、新たな価値を見出すことが喜びです。会社はいつがあるかわからない。キツイ状況の中で、「こうすれば何とかなる」という経験の積み重ねから、変化に耐えられる力や自信が身に付き、会社の仲間と無理難題を乗り越えて行く楽しさを知るのだと思います。

後輩である北高生の皆さん、これからも応援しています！

2学年ドッジボール大会開催

12月14日、クラス対抗ドッジボール大会を開催しました。修学旅行で培ったチームワークが発揮され、楽しい学年HRとなりました。



行きたいです。部活動の両立を図りながら日々努力していきなさい。英語を学び、学業と部活動の両立を図りながら日々努力していきなさい。

大会では審判員にも責任ある行動が求められ、服装、言動、体調管理等にも心を配りました。他県のユース審判員とのグループディスカッションや研修を通して、様々な考え方や情報に触れることができました。大会で見つけた新たな課題にこれから挑戦し、JFLで最高級の1級ライセンス取得に向けて、頑張っていきたいと思えます。また、国際審判員を目指し、英語を学び、学業と部活動の両立を図りながら日々努力していきなさい。

全日本少年サッカー大会に審判員として参加
12月24日から鹿児島県で開催された大会にJFL2級ライセンスを持つ相馬寿哉さん(2年・荒浜中出身)が高校生ながら審判員として参加しました。



サッカー部 相馬寿哉

冬の交通安全運動 1月18日、生徒とPTAが一体となり、交通安全運動を実施しました。「冬道の事故0」を目指し、これからも声掛け運動を続けて参ります。ご協力いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。



楽天 岸 孝之選手のサインユニフォーム寄贈 12月19日、楽天球団スタッフが来校し、東北楽天に移籍した岸 孝之選手(22回生・平15卒)が「名取北高校様へ」と宛てたサイン色紙、サイン入りユニフォームを届けていただきました。後輩への熱いエールに感謝申し上げます。



【宮城県名取北高等学校】
〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103
TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976
HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>
mail chief@natorikita.myswan.ne.jp
(担当) 教頭・町田尚彦
(学校だよりのご感想をお寄せください)